



水稻(病害)編



病害虫注意報
2017年6月作成

※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。

① 紋枯病

水際部から発生して上部へと広がるため、発病初期は見落としがちです。病徴によっては大きな減収となります。紋枯病菌は高温を好むため、高温期に登熟する早生品種では特にご注意ください。

薬剤名	倍率/使用量 ・使用方法	使用時期	使用回数	その他の適用病害
モンカット粒剤	3~4kg/10a ・湛水散布	出穂30~10日前 (収穫14日前まで)	3回	—
モンカットフロアブル	1,000~1,500倍 ・散布	14日前		疑似紋枯症(赤色菌核病菌・褐色菌核病菌・褐色紋枯病菌):1,000倍
モンカットフロアブル40	2,000倍・散布	14日前		—
バリダシン液剤5	1,000倍・散布	14日前	5回	もみ枯細菌病、疑似紋枯症(赤色菌核病菌・褐色菌核病菌・褐色紋枯病菌)

② いもち病

育苗~収穫期まで発病の恐れがあり、発生すると減収や品質低下を招きます。発生予察に基づいて適期防除を行い、発生した場合は早期に対策を行うようにして下さい。

薬剤名	倍率/使用量 ・使用方法	使用時期	使用回数	その他の適用病害
コラトップ粒剤5	3~4kg/10a ・散布	葉いもちに対しては初発10日前~初発時、穂いもちに対しては出穂30日前~5日前まで	2回	もみ枯細菌病:4kg/10a
オリゼメート粒剤	3~4kg/10a ・散布	葉いもちに対しては初発の10日前~初発時、穂いもちに対しては出穂3~4週間前(収穫14日前まで)	2回	白葉枯病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、もみ枯細菌病
ブラシフロアブル	1,000倍・散布	7日前	2回	稲こうじ病、褐条病、ごま葉枯病、墨黒穂病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、もみ枯細菌病、内穎褐変病、変色米(カーグラリア菌、アルタナリア菌、エビコッカム菌)

歩留りアップ! 食味アップ! 倒伏軽減に!

ファイトアップ

使用時期: 出穂30~45日前

※早めの施用で効果が高くなります。

＜発砲型投げ込み剤＞

必ず5cm以上湛水
投げ込み後3日は足し水・
かけ流し・落水はしない

10aあたり
1袋(10錠)
投げ込み



肥料登録(生第90409号)